



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより第21号
令和4年9月20日

コロナ禍においても「一人ひとりの大切な学びを止めない」

夏休みからのタブレットの持ち帰りに併せて、2学期から、ICT機器を活用したオンライン授業をスタートしました！オンラインでの授業が日常になってきました。

～ 家庭と学校を「つなぐ」、授業を「つなぐ」、仲間と「つなぐ」 ～



川越中学校(川越町内の小中学校)では、この夏休みから一人一台タブレットの持ち帰りを始めました。夏休みには、各学年からの宿題や課題をタブレットを活用して取り組んだり、タブレット内に設定してある「ミライシード(学習ソフト)」を活用しての学習等を少しずつはじめました。9月2日(金)付で配付した「学校だより第18号」内の『新型コロナウイルス感染症に係る2学期以降の対応について<学校での感染症対策と対応>』として紹介させて

いただきました、『オンライン授業』。あくまで、子どもたちの体調を十分に考慮したうえで、保護者の皆様(各家庭)からの申し出により、「Googleclass ルーム」を用いてリアルタイムで授業をつなぐ学習をスタートしました。学校には予備タブレットが各クラスで対応できる分が不足しているため、現状では本人のタブレットを教室内の席に固定し、授業を固定カメラにて配信をしながらの授業形態にてすすめました。ご家庭では自宅でのPC/スマホ等での対応をお願いしました。



「黒板の文字が見えにくい」などの意見もあり、教室内の一番前の座席から配信をするなど、試行錯誤しながらも、徐々に対応ができるようになりました。何より、クラスの仲間がオンライン授業の状況をしっかりと理解し、自宅で学習を頑張る仲間思いを馳せながら、先生だけではなく子どもたち同士がタブレット越しに声を掛け合いながら学びをしている様子もありました。移動教室でも、同じ班の仲間がタブレットを持ち、声をかけながら教室移動している様子はあたたかい子どもたちの関わりを感じることができました。まだまだ、物理的な課題や、学校側の工夫など改善の余地はありますが、「子どもたちの学びを止めない」ことを目的として、「つながり」を大切にしたオンライン学習を始めていきたいと思います。9月5日(月)から始めたオンライン授業は本日で3週間目になります。コロナ禍はまだまだ川越中学校でも予断を許さない状況でもあります。学級閉鎖等の自宅待機期間であっても、「Googleclass ルーム」を用いて毎日の連絡をしたり、学校だよりやクラス通信を配信するなど、コミュニケーションツールとしても活用をしています。

【写真は各教室において、子どもたちのタブレットで固定カメラに設定して授業を配信している様子や各授業において、タブレットを活用しての授業の様子です。】

上記でも紹介したように、オンラインでの授業参加も軌道にのりつつある今、生徒会本部役員会の会議もオンライン会議をスタートしました。先週の体育祭係別会議を行う中で、生徒会本部役員のメンバーは、「総務係(全体を中心としての総括)」としても頑張っています。頑張っている様子を応援するため、生徒

会室に入ると、自宅からオンラインでタブレット上で会議に参加をしています。参加している本部役員のメンバーはまったく違和感もなく、普段の日常の一コマのように普通に話し合いをすすめています。もうオンライン会議は大人だけのものではなく、子どもたちも日常になっているんだなあと改めて感じる事ができました。ICT機器を活用した取り組みは、「学びを止めない」だけではなく、本当に子どもたちを「つなぐ」、先生と子どもたちを「つなぐ」、大切なツールになっていることを目の前で感じる事ができた瞬間でした。【 写真は9月9日(金)の体育祭係別会議の様子から。生徒会本部オンライン会議の様子 】



2学期に入り、「学校だより」では、平和について考える内容を、『クラスでの安心できる居場所』や、『1年生国語授業での内容』、『沖縄慰霊の日の平和の詩』等から、みなさんに紹介してきました。

今日は、1冊の本の紹介から・・・

書籍名 『へいわとせんそう』 作者：たにかわ しゅんたろう



世界においては、依然として地域(侵略)戦争は絶えることがありません。ロシアのウクライナ侵攻が始まって約7ヶ月が経過しようとしています。1日でも早く、1人でも犠牲者が少なく争いが終わってほしいと心から願わずにはいられません。

『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』(ユネスコ憲章より抜粋)

「へいわとせんそう」。川越町図書室から借りてきました。川越中学校の図書室でも、もうすぐ新着本として紹介されると思います。

作者の「たにかわ しゅんたろう」さんが、この書籍「へいわとせんそう」にどんな想いを込めたのでしょうか？私(校長)は、学校だより第18号・第19号でも記した言葉『当たり前の中の幸せ』。その想いをこの本から強く感じました。なぜ、戦争によって犠牲になるのは、いつも何の罪もない老人、女性、そして、みなさんと同年代のこれからの人生にいっぱいの夢を見ている子どもたちなのでしょうか。当たり前に来る明日を、一生懸命に生きたかった子どもたち。戦争が、大切な子どもたちの日常の幸せを奪っています。機会があったら、「へいわとせんそう」の本を手にとってほしいです。



